俺の、水族館

堀井　徳仁
福屋研究室

設計主旨

僕は水族館という空間が好きだ。
皆さんにとって水族館とはどんな場所だろうか？
「遊びの場」、「学習の場」、「（擬似）体験の場」、「ドキドキ、ワクワクをくれる場」・・・・・・・・・・
様々な答えがあるだろう。そのどれもが答えであって、決してハズレは無い。

日本には世界の6割近くの水族館が存在しており人口当たりに占める水族館数が世界一と言われており、日本は水族館大国である。近年では様々な手法を凝らした展示がたくさんあり、展示の手法、技術は海外からも注目されている。

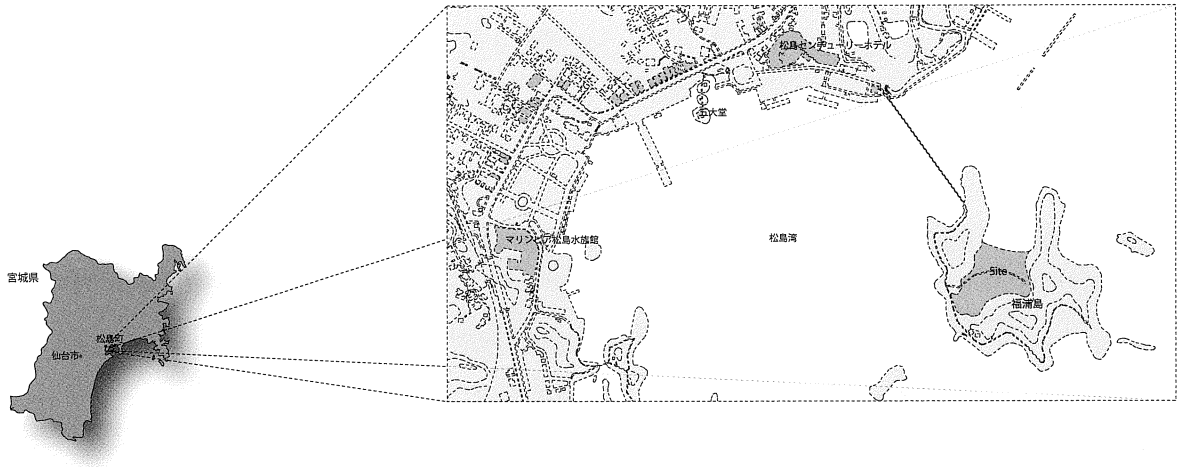
そんな中、今1つの水族館がなくなろうとしている。それは、松島にある、マリンピア松島水族館である。
この水族館は、日本で2番目に歴史が長く、また同一の場所にある民営の水族館としては最古であると同時に、長期にわたり、松島の観光としての役割もになってきた。
松島の観光としてのステータスが崩れてしまう。
松島には水族館はなくてはならない存在といえる。

今回の設計は、水族館がなくなってしまう松島に新たに水族館をつくり、松島に水族館を復活させ、今までにない新たな水族館を提案する。

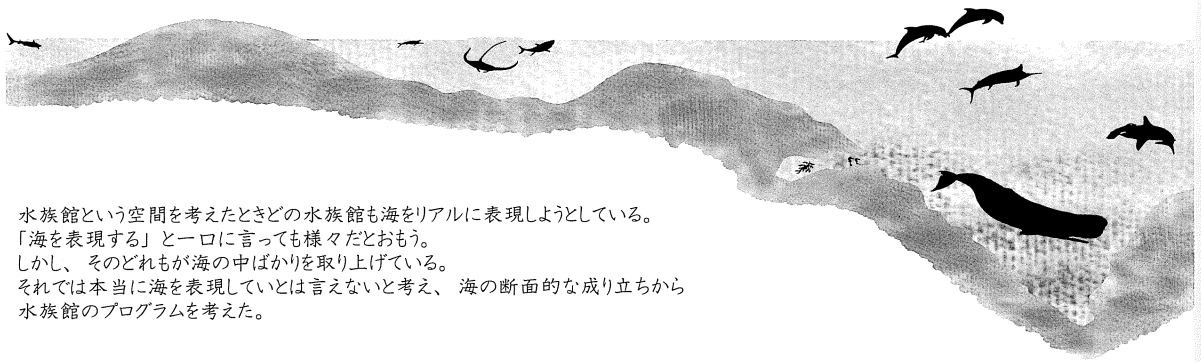
12
2013年度
建築学科
卒業研修
報告集
東北工業大学

Site

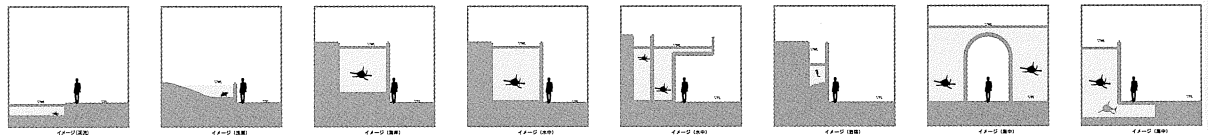
松島海岸の東に浮かぶ島。
松島海岸駅から1km 弱のところにある。一際目を引く、252m の朱塗りの橋で陸と結ばれており、島全体は、県立の植物園に指定されている。
島には、ツバキ、カエデ、竹など約 25 種にも及ぶ草木が自生している。
島からは随所に松島の綺麗な眺望を楽しむことができ，島内に入るのはお金を払えば入ることができる。老若男女、子供大人を問わず人が訪れる。周辺は、宮城でも有数の観光地であるためお土産屋、飲食店などが立ち並んでいる。
遊覧船があり湾内を探索することができ，土日、祝日には県外からの人たちで賑わう。



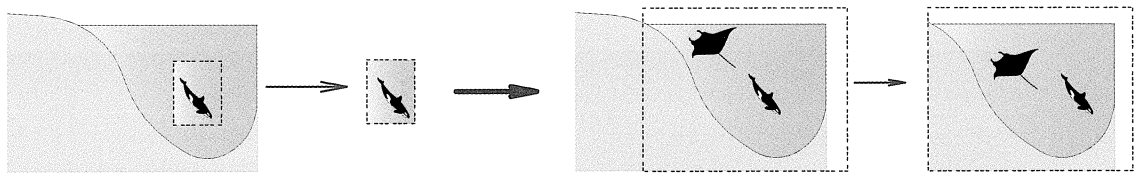
Program



水族館という空間を考えたときどの水族館も海をリアルに表現しようとしている。
「海を表現する」と一口に言っても様々だとおもう。
しかし、そのどれもが海の中ばかりを取り上げている。
それでは本当に海を表現していとは言えないと考え、海の断面的な成り立ちから水族館のプログラムを考えた。

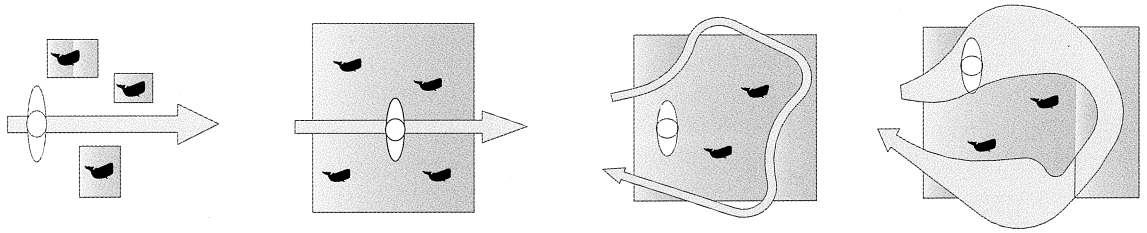


Diagram



今までの水族館は海の中の一部を切り取って展示をしていた。

そこで海を断片的に切り出すのでなく海を大きく切り出す。フロアで完結するのではなく、建物全体で海を表現する。



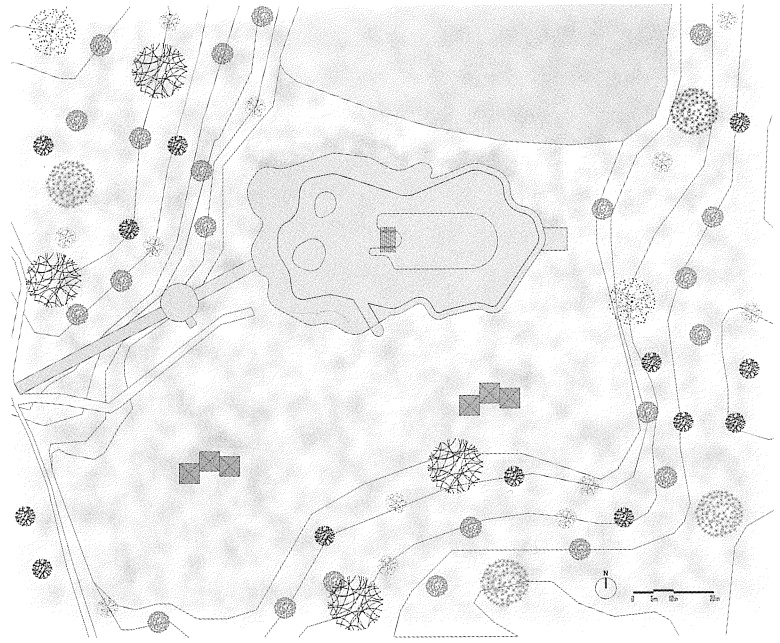
今までは、水槽に対して動線が一定に幅でもうけられていた。

水槽に対してでなく、水槽に中に動線を組み込む。

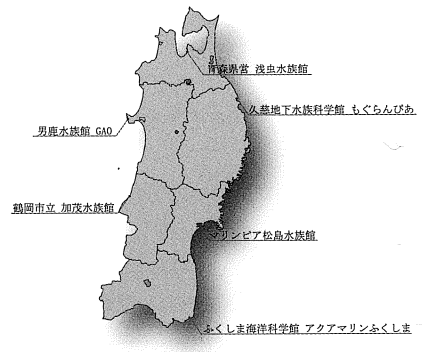
水の中では動線はグネグネと入り組んでいる

水の中では空間的な決まりはない。狭いところ、広いところ様々ある。

Site layout

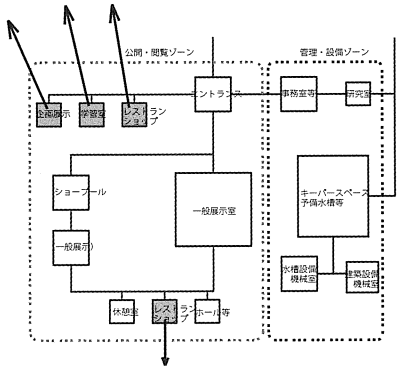
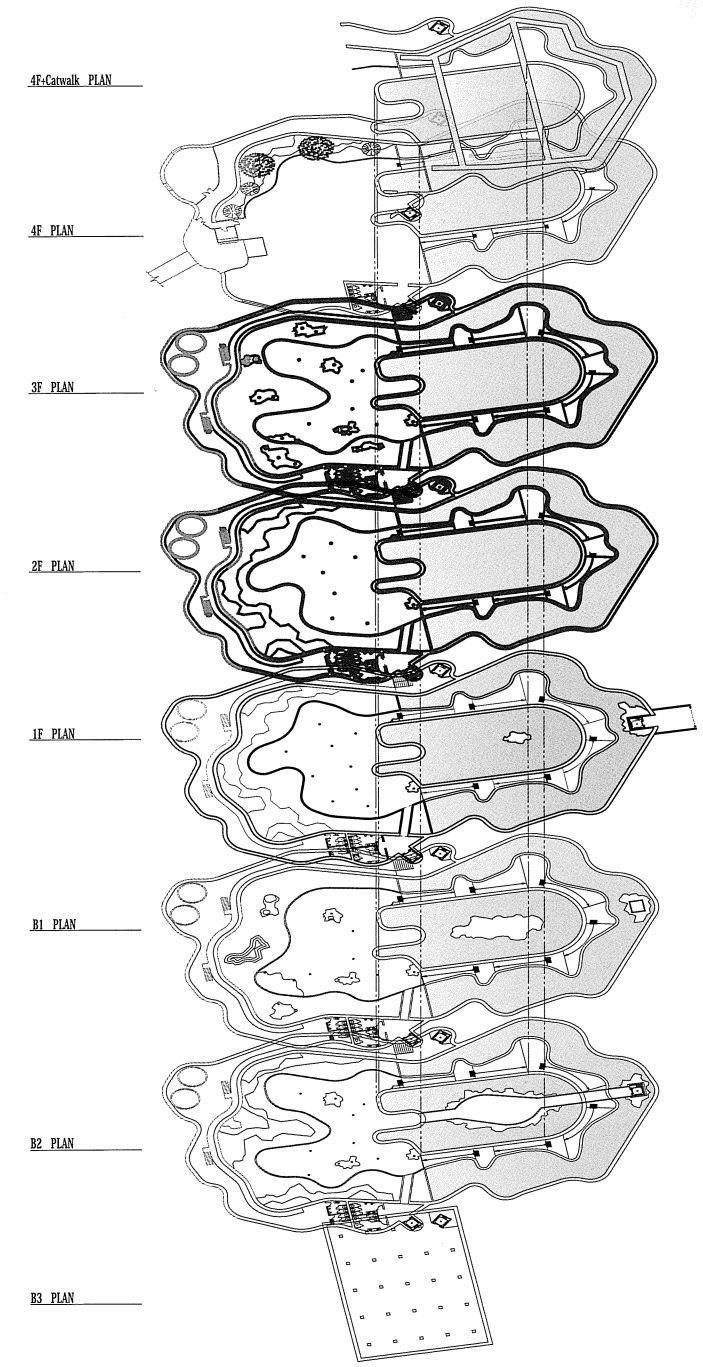
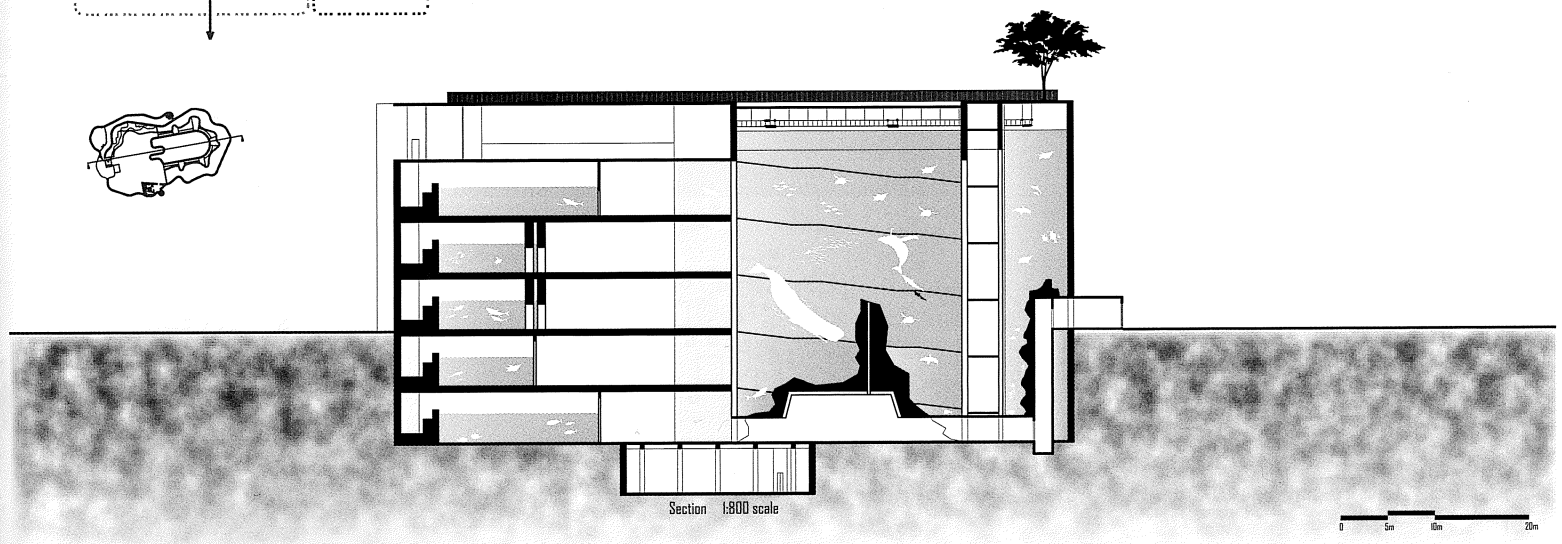


水族館の分布（東北）



・世界には水族館が約 430 館程あり、そのうちの 6 割の 70 館が日本に存在する。
・日本は、人口当たりの水族館数が世界一と言われており、水族館大国である。
・東北には水族館が 9 つ存在する。(そのうち 3 つは現在閉鎖中)
・東北地方には各県に 1 つ以上水族館が存在している。

機能図



大体の水族館が以下の図のような機能構成のモデルとなっている。
今回の私の計画では、松島という観光が盛んな場所を敷地としているので、図のようにオレンジ色の部分を建物の外へとだす。
そうすることにより、街全体で観光の新たなサイクルが作りだされる。